

メールマガジン

第六号

2006/10/20

1 目次

○トピックス

- 第一回東アジア・ラテンアメリカ大学学長フォーラム開催
 - 2006年中国国際教育展覧会開催
 - 北京駐在大学関係者意見交換会
 - 九州大学柳原正治副学長 来所
- 国際化における中国の高等教育

2 メールマガジンへの寄稿

九州大学北京事務所では、中日研究・教育や九州大学OBの活動に関する情報、集会やイベントの案内など、メールマガジンの原稿を募集し、九州大学教職員・OB及び関係各位に配信します。ご寄稿くださる場合は、電子メールまたはファックスにて、九州大学北京事務所宛にお送りください。電子ファイルを添付していただくと、編集が効率的にできます。

3 事務所だより

同窓会BBS <http://www.kyushu-ucn.net/bbs/> へようこそ！

在中国九州大学同窓会ホームページには皆さんのBBS（掲示板）を設けています。同窓生同士の情報交換や伝言などの機能を担えるよう期待しています。当BBSをお使いいただく場合はユーザ登録が必要です。登録ページはhttp://www.kyushu-ucn.net/User_JP/zhuce.asp へどうぞ。今現在のユーザ登録数は130名を超えています。より多くの方がご愛用いただくようお待ちしております。当BBSは規約を承諾される同窓生のみ発言を許可します。ユーザ資格を確認するために、申し込んでから、ユーザIDの取得まで、数日が要します。また、規約に違反する書き込み・関係のない話題は、事前・事後の通知や削除理由の説明なく削除及び発言禁止の処理を行なう場合がありますので、予めご了承ください。

編集代表者：九州大学北京事務所長 九州大学中国同窓会事務局長 宋 敏
発行：九州大学北京事務所 九州大学中国同窓会事務局
住所：〒100086 北京市海淀区中関村南大街甲6号铸诚大厦B座2008室
電話：+86-10-5158-1387 ファックス：+86-10-5158-1367
メール：peiking_office@yahoo.co.jp (日语)
kyudai_ob@kyushu-ucn.net, kyudai_ob@126.com (中文)

トピックス

1

第一回東アジア・ラテンアメリカ大学学長フォーラム開催

2006年10月16日(月)から17日(火)にかけて、中国教育交流中心が主催し、中国教育部と中国外交部が協賛した第一回東アジア・ラテンアメリカ大学学長フォーラムが北京インターナショナルホテルにて開催されました。日本を含めて延べ14カ国の43個大学学長又は代表者が参加しました。本フォーラムは、マニラ行動計画の実践、東アジア・ラテンアメリカ地域における経済協力と開発の進展、地域経済開発のため



に大学が果たす役割についての探求、高等教育分野における地域間交流・協力の深化などを目的としており、大学関係者のみではなく、日本、ブラジル、チリ、シンガポール、中国などの教育や外交部門の政府関係者なども出席しました。日本からは筑波大学のNeantro Saavedra-Rivano APECセンター長(人文社会科学研究科教授)、上智大学のLinda Grove学術交流担当副学長、九州大学の宋北京事務所長及び在中国日本大使館の横井一等秘書官等が出席しました。

本フォーラムは開会式、各国代表スピーチ、分科会(パネル・ディスカッション)、大学訪問・視察、分科会報告、閉会式というスケジュールで行いました。開会式では、中国外交部アジア司佟晓玲参事官が挨拶し、中国教育部国際協力司岑建君副司長が「国際化における中国の教育とイノベーション」を題した基調講演を行いました。続いて、各国代表スピーチセッションにおいては、北京外国語大学の郝平学長が座長を務め、シンガポール国立大学のLawrence Loh副学長、メキシコのUniversidad Iberoamericana Ciudad De MexicoのJose Morales学長、韓国の東国大学のByoung-Sik Kim副学長、日本の上智大学のLinda Grove副学長、北京言語文化大学の崔希亮学長が公演を行い、それぞれの大学における国際交流へ取り組みや



、国際教育や研究プログラムなどを説明しました。そして午後の分科会(パネル・ディスカッション)においては、言語教育、技術イノベーションと移転、学位承認と単位交換などのサブテーマで、三つのグループに分けて、各大学の国際交流現状などを紹介しながら、幅広くディスカッションを行いました。17日に代表者の希望によって、北京大学、北京師範大学、北京外国語大学及び北京科技大学の四つの大学をそれぞれ訪問しました。午後、各分科会(パネル・ディスカッション)の座長はディスカッションのサマ리를レポートし、閉会式を行いました。会合終了後、スピーチ原稿等を集めた冊子を作成する予定です。

トピックス

2

2006年中国国際教育展覧会開催

中国では、近年、海外留学ブームに火がついている。中国での海外留学ブームは大学生だけではない。高校生、中学生、そして小学校にまで広がりを見せている。中国の若者の留学ブームは、人気のある種々の留学フェアで示している。10月14日（土）から15日（日）までの二日にわたって、中国教育国際交流協会が主催する2006年中国国際教育フェアは、北京国際貿易展覧館にて開かれ、規模的にも、内容的にも、アジア一の最大級国際教育展示会と言われる程、盛大に開催された。海外からの出展大学は昨年の400校から今年の450校に増え、30カ国と地区にわたっている。大学のみでなく、イギリス大使館教育処、ドイツ学術交流中心、独立行政法人日本学生支援機構、ロシア教育署など12カ国の教育機構も出展した。日本からは東京大学、早稲田大学、一橋大学、上智大学、神戸大学、同志社大学などの大学が今回の展覧会に参加した。北京の展覧会が終わった後、17日から29日まで、ハルピン、上海、南京、成都、深圳の五つの都市を回って続いて行われる予定もしている。



バラエティーな展示内容とイベント



来場者で賑わう欧米展示区



日本展示区に興味深甚の観客



人気を奪う豪洲展示区



説明会に臨むイギリスの大学

■ トピックス ■

3

北京駐在大学関係者意見交換会

中国・北京を拠点に活動している日本の高等教育・研究機関及び関係機関の交流・連携を図るため、9月25日（月）に早稲田大学北京事務所にて恒例の「北京駐在大学関係者意見交換会」が開催されました。

北海道大学、東京大学、九州大学、東京工業大学、広島大学などの北京駐在事務所関係者と、日本国大使館、日本学術振興会（JSPS）、科学技術振興機構（JST）、国際協力銀行（JBIC）、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）などの関係機関の代表30名が今回の意見交換会に出席しました。

今回の意見交換会では、理化学研究所や福山大学等は最近の活動について紹介、国際協力銀行と大学との連携（中里）、日本への留学と日本での就職を説明したDVD（武隈）、首都師範大学における合同留学説明会（山口）、中国日本商会による日中交流事業活動計画（武田）、中国赴日留学生預備学校（長春）での大学説明会（岩佐・横井）などの件については、幅広く意見交換を行った。

また、「北京駐在大学関係者意見交換会」の名称について、佐藤会長より、命名を依頼した広島大学・牟田泰三学長から「平和を希求する精神」にちなんで『希平会（日中高等教育交流北京連絡会）』とする案があった旨紹介され、出席者により承認された。

4

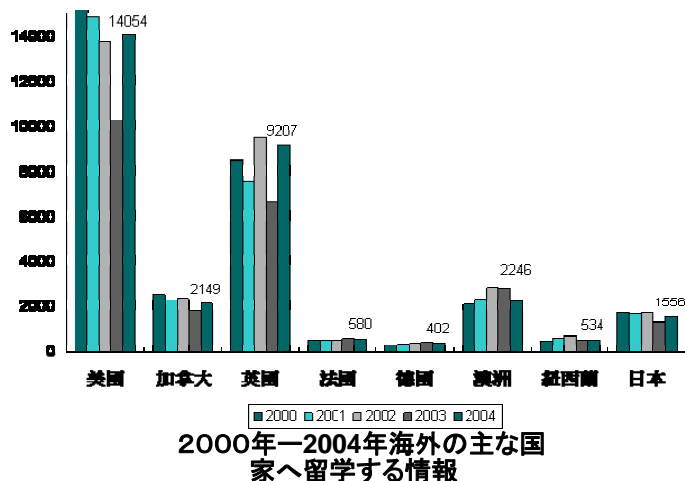
九州大学柳原正治副学長 来所

2006年10月10日（水）から12日にかけて、九州大学と北京大学との共催セミナーに出席のため、九州大学柳原正治副学長が来中。北京に滞在中、柳原正治副学長が北京事務所に訪れ、学生や教員の交流、共同教育プログラムなどを通して、中国の大学や研究機関との国際交流を積極的に推し進めることについて、宋敏所長と意見交換を行い、実現のために前向けて検討することを合意しました。

■国際化における中国の高等教育■

21世紀を迎えた今日、国際化の急速な進展や高度情報通信社会の到来等、私達を取り巻く社会が急激に変化する中で、教育の分野にも、国際化の波が押し寄せつつある。特に、中国の高等教育は、この国際化、グローバル化の波の中にスッポリと包み込まれている。こうした傾向は特に時代とともに脈動する留学ブームによって現われる。

中国教育部が発表した留学生統計資料によると、1978年の改革開放以来、2005年までの27年間で、海外への留学生数は93.34万人に達している。うち、2005年度の海外留学人数は11.85万人に昇り、2004年と比べて3.3%増えた。



留学先としては主にアメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、日本、フランス、ドイツ、ニュージーランドなどの国に集中している。2005年のデータから見れば、上記8国への留学人数は32,761人で、同期留学総人数の27.6%を占めている。そのうち、アメリカは15,525人、イギリス9,248人、オーストラリア2,527人、カナダ2,140人、日本1,748人、フランス600人、ニュージーランド498人、ドイツ475人、留学総人数にそれぞれ13.1%、7.8%、2.1%、1.8%、

1.5%、0.5%、0.4%、0.4%の比率を占めている。

また、外国への留学生には、国家派遣留学生は3,979人、会社等の派遣人数は8,078人、私費留学の人数は10.65万人で、留学総人数の90%を占めている。私費留学生には、学業で成果を上げ、しっかりとした学問的基礎を持つ人材は、自分の能力によって国外の奨学金を取得するなどして、個人でも留学することができるようになったケースも多いが、少し豊かになった親は学費などを用意し、子供を海外に送り、留学させるケースも増加しつつある。

なお、中国経済の急速成長なかで、中国の海外留学ブーム衰えず帰国者も増加傾向。2005年、留学帰国者は3.5万人に達し、2004年と比べて39.4%も増えた。2005年現在、すでに23.29万人が学業を終えて帰国しており、教育、科学研究、ハイテク産業、金融、管理などの分野で輝かしい功績を打ち立てている。中国はこれまで、「留学を支持、

年度	留学人数	国家派遣	会社派遣	私費留学
2000	39000	7%	10%	83%
2001	84000	4%	5%	91%
2002	125000	3%	4%	93%
2003	117300	3%	4%	93%
2004	114663	3%	5%	91%
2005	118500	3%	7%	90%

帰国を奨励、行き来は自由」を留学事業の方針として徹底的に実行しており、留学生の帰国を促すための一連の政策を相次いで打ち出している。したがって、留学帰国

■国際化における中国の高等教育■

者の増加傾向がこれから依然としてまた続けると見込んでいる。

一方、外国の若者は中国への関心も高まり、中国への留学人数は急テンポで増えつつある。2005年、中国に滞在する海外留学生の総数は141,087人に昇り、2004年と比べると、27.28%増えた。うち中国政府奨学金留学生は7.49%増えたのに対して、私費の留学生は28.65%も急増した。特に私費留学生の急増は中国留学の人気上昇傾向を示している。そのうち韓国人留学生は、54,079で、国別順位では1位である。2位は日本（1万8874人）、3位はアメリカ（1万0343人）、4位

	人数	
州別	アジア	10,6840
	欧州	16,463
	アメリカ州	13,221
	大洋州	1,806
国家別	韓国	54,079
	日本	18,874
	アメリカ	10,343
	ベトナム	5,842
	インドネシア	4,616

がベトナム（5842人）、5位はインドネシア（4616人）と続く。統計上では、韓国人留学生の数は全体数の38%を占め、日本人留学生より2.9倍多い。日本の総人口1億2000万に対して韓国は4600万人で、日本の人口は韓国より2.6倍多いということを勘案すると、中国の韓国人留学生の数は日本に比べると比率的には約7.5倍ということになる。

また、中国留学人気上昇中と伴って、中国語の勉強も流行っている傾向にある。2005年現在、世界の70カ国の128機関などの中に、延べ160個中国語教育や研究センターを設置、全世界でおよそ30,000,000の外国人は中国語を勉強している。こうした傾向に対応するために、海外で計108個の孔子学院を設置し、そこに中国語の講師を派遣し、中国語の教育を担う計画が教育部によって推し進められている。

中国高度教育の国際化のもう一つの柱としては、国際共同教育プログラムである。90年代の半ばから、中国の大学などは海外の大学と連携して、様々な共同教育プログラムを設け、学部や院生の共同教育に携わってきた。このような共同プログラムの数は1995年の70から2005年の1500までに増加した。

